



平成 20 年度「防災とボランティアのつどい」の開催について（第 3 報）

- 〔 ①防災シミュレーションゲーム「クロスロード」を用いたワークショップの実施
 ②分科会における話題提供者の確定 〕

平成 20 年度「防災とボランティアのつどい」では、「ボランティア活動における安全衛生」をテーマとする分科会において、防災シミュレーションゲーム「クロスロード」を用いたワークショップを実施することになりましたのでお知らせいたします。また、これ以外の分科会における話題提供者及びその概要が決まりましたので、併せてお知らせいたします。

※ 第 1 報：平成 20 年 12 月 19 日付け公表 <http://www.bousai-vol.jp/torikumi/20tudo.html>

※ 第 2 報：平成 21 年 1 月 16 日付け公表 http://www.bousai.go.jp/oshirase/h21/090116_2kisya.pdf

1. 分科会「安全衛生とボランティア活動」

防災シミュレーションゲーム「クロスロード」^{注)}を用いたワークショップを実施し、もって防災ボランティア活動の安全衛生に資する。**注) 別添参照**

- (1) 趣旨 これまでに防災ボランティア活動を通じて蓄積された安全衛生に関する事例を共有し、教訓を汲み取り、その重要性を体感する。
- (2) 概要 被災地等において防災ボランティア活動を行うにあたって、必要不可欠な安全衛生に関する知識を経験的に身につけるためツール（研修用教材）を参加者自らがワークショップ形式により作成する。その作成にあたって、防災シミュレーションゲーム「クロスロード」を用いる。
- (3) 日時 平成 21 年 1 月 21 日（水） 13 時～15 時
 （※10 時～12 時の全体会においても概要のプレゼンテーションが行われます。）
- (4) 場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
 （東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号）

2. 分科会「都市型災害とボランティア活動」における話題提供者等（予定）

・ 帰宅困難者支援訓練	福田 信章 氏（東京災害ボランティアネットワーク）
・ 都心部の大学生ボランティアによる災害対策活動	小島 孝治 氏（工学院大学教務部事務部長） 久田 嘉章 氏（工学院大学建築学科教授） 濱野 航平 氏（工学院大学大学院生） 小菅 芙沙子 氏（工学院大学大学院生）
・ 中央区における防災の取組み	中島 佳久 氏（東京都中央区防災課長）

3. 分科会「復興とボランティア活動」における話題提供者等（予定）

・ 三宅島復興支援	生原 勇 氏（東京都生活協同組合連合会組織課長）
・ アンテナショップを通じた復興支援	藤井 俊公 氏（中央エフエム株式会社事業部長）
・ 岩手・宮城内陸地震、栗駒地区支援	青木 ユカリ 氏

<本件問い合わせ先>

内閣府 政策統括官（防災担当）付 参事官（災害予防担当）付
 伊丹（いたみ）、金山（かなやま）、藤田（ふじた）

TEL：03-3501-6996（直通） FAX：03-3581-8933

防災シミュレーションゲーム「クロスロード」について (広報誌「ぼうさい」平成20年11月号(抄))

災害時には、同時多発的に想定外の問題に直面する。ここでは、阪神・淡路大震災で実際に問題となった「災害対応のジレンマ」をカードゲーム化した「クロスロード」を紹介する。ルールは、問題カードに対し Yes か No か決めるだけ。シンプルなシミュレーションで防災の心を育むことができる。

クロスロードとは、阪神・淡路大震災で、災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材。「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」(文部科学省)の一環として、矢守克也氏(京都大学防災研究所准教授)、吉川肇子氏(慶應義塾大学商学部准教授)、網代剛氏(ゲームデザイナー)によって開発された。

クロスロードの問題カードには、「3000人いる避難所で、2000食を確保した。この食糧を配るか配らないか」など、どちらを選んでも何らかの犠牲を払わなければならないような「ジレンマ」が多数ある。

プレイヤーは、自分なりの理由を考え、苦心の末に「Yes」か「No」か、一つだけを選び、自分の前にカードを裏返して置く。合図で一斉にオープンし、多数派の人は、青座布団を獲得できる。一人だけの人がいる場合、その人は金座布団を獲得し、他のプレイヤーは何ももらえない。座布団の配当を終えたら、問題を全員で話し合ってみよう。



クロスロードのカード(商品には、紙座布団がついています)

問い合わせ先：京大生活協同組合
(電話：075-771-7336)

その人が「Yes」または「No」を選んだ理由を聞くことで、多くの価値観や視点に出会うことができる。

10枚のカードを終えたときに、一番多くの座布団を持っていた人が勝ちとなる。その場に座布団がない場合は、お菓子で代用することも可能。

また、自主防災会などでは、地域独自の問題を作ってプレイするのもためになるだろう。

クロスロードは、災害を自分の身に引き寄せて考えると同時に、他者のさまざまな考えを知ることができる、優れたゲームである。